

遠野市の認定中心市街地活性化基本計画について

遠野市文化政策部文化まちづくり推進室 佐々木 憲康

1. 遠野市の概要

遠野市は、岩手県東南部の北上山地の中央に位置し、総面積 825.62km² で、盆地の中央に中心市街地が形成されています。

続日本紀などによると、西暦 800 年頃の蝦夷（えみし）の集落、その後の安倍氏・藤原氏などの時代を経て、鎌倉時代には阿曾沼氏の時代を迎え、藩政時代には遠野南部家 1 万 2 千 5 百石の城下町として、また、内陸部と沿岸部を結ぶ宿場町として栄えました。

近年では、柳田國男の『遠野物語』により全国的知名度を得たほか、四季が織り成す豊かで美しい広大な自然は多くの人々に親しまれており、グリーン・ツーリズム（遠野ツーリズム）が盛んな市でもあります。

2. 中心市街地の概況

商業及び行政機能が集積している現在の遠野駅前地区は、藩政時代からの中心地区であり、平成 17 年の市村合併による新市誕生以降も中心市街地としての役割を担っています。

しかし、昭和 55 年の県立遠野病院郊外移転に加え、平成 3 年の国道 283 号バイパス開通に伴う郊外型大規模量販店の相次ぐ出店により、商業の拠点がバイパス沿線へ移転しました。

また、観光施設の郊外化が進む一方、旧来から中心市街地に所在する観光施設の魅力が低下し、まちなかの観光客が減少するなど、中心市街地の空洞化が深刻な課題となりました。

3. 中心市街地活性化への取組

このような状況の中、平成 10 年の旧中心市街地活性化法施行を機に、遠野市中心市街地活性化基本計画（旧計画）を策定。マイカルの撤退によって閉鎖された中心市街地の核店舗を「遠野市中心市街地活性化センター」として再生したほか、商工会女性部が取り組んだ「遠野町家のひなまつり」が年々拡大し、観光客が少ない冬季間の一大イベントに成長するなど、一定の成果は見られましたが、中心市街地の空洞化に歯止めをかけることはできませんでした。

4. 中心市街地活性化基本計画の認定に向けて

「まちづくり三法」の改正に合わせ、平成 18 年 5 月、市民協働による「遠野まちなか賑わいプロジェクト・チーム」を設置し、中心市街地に住む人・利用する人の立場から検討を開始しました。平成 19 年 9 月には「遠野市中心市街地活性化協議会」を設立し、活性化の推進体制を整備しました。

また、計画策定にあたり、旧基本計画の検証結果による課題の抽出、現状分析と地域住民のニーズの把握などを行い、まちづくりの基本方針を定めました。

5. 基本理念と基本方針

当市には、城下町・宿場町などの歴史・風土と、『遠野物語』に代表される貴重な文化遺産があります。こうした先人から受け継いだ歴史・風土・文化を基盤としながら、市民とともにまちづくりを進め

るため、キャッチフレーズ、「回遊」・「交流」をコンセプトとした3つの基本方針を定めました。

《キャッチフレーズ》
「町家の心が息づく語らいのまち」
～永遠の日本のふるさと遠野
の実現に向けて～

●藩政時代から形成された「町家」の歴史・文化を活かしたまち

平成19年度に遠野遺産認定制度を創設し、歴史的・文化的資源を保存・活用したまちづくりを推進していることから、中心市街地の施設整備に当たっても、最大限の既存資源活用を図り、中心市街地に残る町家、名所・旧跡、さらには神社・仏閣などの観光資源をルート化し、観光客がまちなかを回遊する仕組みを構築する。



蔵の道



市内に残る町家

●集積した都市機能を活かすコンパクトなまち

中心市街地は都市機能が集積しており、高齢者等が歩いて日常生活を送れる場として有効であることから、バリアフリーの公営住宅を中心市街地に建設するほか、可能な限り公的施設を中心市街地に立地し、歩いて暮らせるコンパクトなまちづくりを推進する。

●活力ある賑わいのあふれるまち

中心市街地の空き家・空き店舗等を活かすため、高齢者を始めとした市民の「わざ（技）」の活用を図る。市民作品の展示・販売所と休憩所を兼ねた「趣味の博物館ネットワーク」の構築により、商業と観光を同時に振興する仕組みを整備し、市民・観光客がともに楽しくふれあえる活力と賑わいのあふれるまちづくりを推進する。

6. 数値目標

人口減少・少子高齢化及び厳しい財政状況の中で、「観光客と高齢者に優しく、癒しと懐かしさを感じるまち」の実現に向け、中心市街地を高齢者に住み良く、観光客にも魅力ある街として整備し、誰もが生き生きと活動できる魅力ある中心市街地づくりに取り組むこととしました。

目標 多くの観光客が訪れる中心市街地

指標 観光客入込数

89,869人 / (19年度) → 100,000人 / (25年度)

※中心市街地の観光施設（遠野市立博物館・とおの昔話村）の入込客数

目標 市民と観光客の回遊と交流により賑わう中心市街地

指標 歩行者・自転車・バイク通行量

(平日・休日平均)

4,429人 / (20年度) → 4,668人 / (25年度)

7. 中心市街地活性化のための 主な事業

①新とおの昔話村整備事業

現とおの昔話村のバリアフリー化に加え、保存している町家や蔵の復元、蔵の道ひろばの開閉式ドームの設置など、新とおの昔話村として周辺施設を一体的に整備。語り部による昔話ライブの通年開催や柳田國男没後50年記念イベントなどを開催。



とおの昔話村

②観光交流センター整備事業

市の玄関口である遠野駅前に観光交流センターを整備し、観光情報の提供や観光ガイドによる遠野ツアーを提供。

③博物館リニューアル事業

『遠野物語』発刊100周年に合わせ、展示内容のリニューアルとバリアフリー化を実施。「永遠の日本のふるさと遠野」のブランド力を向上し、全国に情報発信。

④まちなか趣味の博物館ネットワーク事業

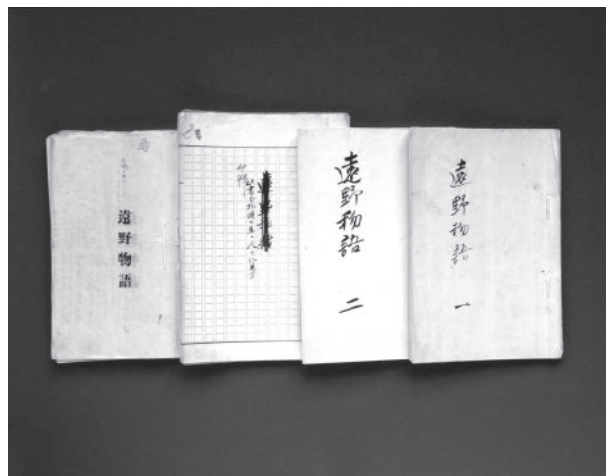
空き店舗をネットワーク化し、高齢者等の手作り作品や写真を募集・展示、特産品を販売。

⑤まちなか応援隊整備事業

まちづくりを応援する市民を「まちなか応援隊」として組織し、観光案内やイベントを実施。

⑥『遠野物語』発刊100周年記念事業

平成22年6月、『遠野物語』は、発刊から100周年を迎える。この節目の年に、柳田國男や遠野物語関連記念行事を開催することにより、市民全体でその価値を学び、再認識・再評価し、郷土への愛着と誇りを高める機会とする。同時に、これからの100年を展望しながら、遠野ならではの個性豊かな文化を活かしたまちづくりと人づくりを積極的に進める。



遠野物語

8. おわりに

『遠野物語』発刊100周年を来年に控え、当市では、文化によるまちづくりを強力に推進するため、この4月に文化政策部を設置しました。中心市街地の活性化も文化行政の中で進め、駅前開発などのハード事業、100周年の市民協働ソフト事業などを一体的に推進してまいります。人口減少やグローバル化が進む中で地域の宝を再認識し、市民、民間団体、行政がスクラムを組み、総合力でまちなかの活性化を図ってまいりたいと思います。

(ささき のりやす)